

新基地建設反対名護共同センターニュース

辺野古に活断層の可能性高い

土砂投入を許さない！ジュゴン・サンゴを守り
辺野古新基地建設断念を求める

3・16 県民大会

県民投票で新基地建設反対の圧倒的民意が示されました。日本が民主国家ならこの民意を無視して工事を強行することは許されない。沖縄県民の命とくらし、地方自治、日本の民主主義を守るために集まりましょう。

日時・3月16日(土)

開場：13時 開会：14時 閉会：15時

会場・那覇新都心公園

主催・辺野古新基地を造らせない
オール沖縄会議



立石名誉教授



図は琉球新報社 HP より

立石教授らは楚久断層と辺野古断層周辺で調査し、堆積物の比較などから「両断層が活断層である可能性が高まった」と話しました。その上で活断層の有無を明確にしないまま国が進める辺野古新基地計画は、「基地に保管、貯蔵される軍事物資によつては、住民の命がおびやか

される」と工事を強行している政府を批判しました。東北大講師の遅沢壮一氏(地質学)は、「辺野古断層」は2万年前かそれより新しい時期に動いたもので「極めて危険な活断層」と指摘しています。

立石雅昭新潟大名誉教授(地質学)など地質学の専門家は十数人は3月1～4日まで辺野古新基地建設現場周辺で地質調査した結果、活断層の疑いが一層高まったことがわかりました。立石さんは「県民の安全を担保するためにも防衛局と県に調査の実施を要請したい」と話しています。

地質研究者らの現地調査で判明

新たなK8護岸工事強行 第2棧橋で利用か

防衛局は県民投票で明確な民意が示された以降も、依然として違法な工事を強行しています(写真下)。5日は新たに着工したK8護岸工事と汚濁防止膜の設置工事を進めていました。平和丸の仲本興真船長は「安和港から海上輸送した赤土の陸揚げがK9護岸だけでは間に合わないでK8護岸工事を急ぎ、県の許可も得ず第2の棧橋として利用しようとしている」と話しました。この日機関紙協会京滋支部の皆さんなどが平和丸から海上視察しました。



台船から赤土をダンプに積み込む

大浦湾側の9護岸では安和港から海上輸送の赤土をダンプに積み込み、辺野古側の現場に運ぶ作業を繰り返していました。他に赤土を山積みした台船3隻が待機していました。

「障がい者辺野古のつどい」へのメッセージ ①



人材育成コンサルタント
辛淑玉

戦争は、『障害者』を殺して始まり、『障害者』を再生産する。戦争は、敵を作り出し、殺すことが正義となる。戦争は、人間のまっとうな判断を狂わせる装置じゃないか。社会が障害であるマイノリティにとって、日常が闘いの日々なのに、この上、戦争に加担する社会を見過すことは、どうぞ、私を殺してと言っていることと同じ。いつでも戦争は、一部の人の金儲けのために始まるのに、殺されるのは名もなき人々だ。国を愛せよと洗脳されて、他者を愛することを否定され、憎むことを強いる。いやだ。いやだ。いやだ。人殺しに関わることはすべて嫌だ！外交の失敗を人殺しで解決する政府って、どこか、なにかおかしい。沖縄から、辺野古から出ていった兵隊さんたちは、どこにいくのか、何をしに行くのか。何をしてきたのか。戦争屋が残したものは、廃墟と、憎しみと、絶望だ。戦争屋に反対すること、それは人間として生きること。人間として、生き続けるためには、戦争屋に利用されないこと。生きさせろ！だから、基地はいらない。戦争もいらない。戦争を好む政府もいらない。生きさせろ！私も、親も、子も、孫も。愛する人々も、不愉快な人々も。生きさせろ！

生きさせろ！

3月2日に開かれた「障がい者 辺野古のつどい」へ多くの著名人からメッセージが寄せられました。順次紹介します。